

緊急連載 東京五輪ゴルフ会場問題の真相

【社会面】

真相 東京五輪ゴルフ会場問題



山中 博史

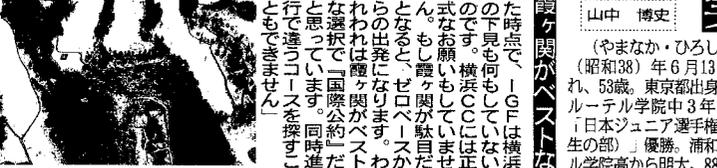
2020年東京五輪・パラリンピック招致時に、「霞ヶ関CC」（埼玉県川越市）の細則の英文を送付しなかったという「凡ミス」が発端だったゴルフ会場問題。正会員資格を巡り一部で批判を浴びる同CCでの開催が不可能になった場合はどうなるのか。日本ゴルフ協会（JGA）が国内主要競技団体や都と設置した「五輪ゴルフ競技対策本部」の山中博史副本部長(53)から、驚愕の事実が明らかにされた。

もった大きな「危機」を回避する方が重要だと主張した。「2024年以降もゴルフは五輪競技に残れるのか。実施競技を検討する9月のIOC(国際オリンピック委員会)総会の際、3カ月前までにはこの問題は解決しないといけない」。リオでもい選手が出なかった。ゴルフ場がキリキリまで上がった。これでもいかなかったら、どうしようもない。東京も、となれば「ゴルフは何をやっているんだ」という声も他の競技団体から上がってきた。五輪に入りたいたいスポーツはほかにもたくさんありますから」。今連載の1回目で、ゴルフ会場は半年間を駆け込みで50から10、10から5に絞った上で、優先順位1位を霞ヶ関CCに決めた経緯を解説し、立候補ファイルに載せたのは霞ヶ関CCだけだ。この際、2位の徳兵衛CCに移し、緊急態勢を回避してはどうかという意見も出ていた。しかし、事はそう簡単にはなかつた。山中氏が明かす、「霞ヶ関CCが決まっ

東京五輪ゴルフ会場を巡る今年の動き
1・4 組織委の森喜朗会長が霞ヶ関CCの輸送面の問題などを指摘
13 小畑百合子都知事が正会員の規定に違和感を表明
20 IOCがJGAに改善を求めてきたことが半明
27 IOCが組織委に改善を要請したと公表
31 安倍晋三首相が国会で正会員の規定を疑問視
2・7 霞ヶ関CCが理事会開催



『霞ヶ関が駄目なら即横浜』ではない
ゼロベースからのやり直しに



山中 博史
(やまなか・ひろし) 1963(昭和38)年6月13日生まれ。東京都出身。浦和ルーテル学院中3年の78年「日本ジュニア選手権(中学生の部)」優勝。浦和ルーテル学院高から明大、88~93年にメジャー20大会以上で青木功のキャプテンを務める。日本ゴルフツアー機構専務理事。2015年1月から日本ゴルフ協会専務理事。昨年12月から五輪ゴルフ日本代表のチームリーダーも務めた。

霞ヶ関カンツリー倶楽部
1929年に東コースが開場。世界的設計者のC・H・アリソン氏による改修も加え、32年に西コースも完成。日本で初めて36ホールを持つゴルフ場となった。緑豊かな武蔵野丘陵に広がる林間コース。池やバンカーと、左右に松林が戦略性を高めている。57年に日本

記者の目
年明けから一気に広がった「霞ヶ関CC」の正会員資格を巡る騒ぎは、今もついにけいなくもなっていない。一部は有志団体の海外でも報じられたが、「男尊女卑」という禁止められたとしたら残念だ。場の最終決定者として承認したはずのIOCが今になって霞ヶ関CCに改善要求を出した。情報を共有するIGFは、十数回もの視察でも何人も正会員資格はないことばかっていた。「女性」の正会員に、責任逃れとの印象はぬぐえない。一部で霞ヶ関CCに決定した経緯を問題視する声もあるが、山中氏のインタビューや関連取材で示されたプロセスに密着性はなかった。「男女差別」「ブラックボックス」といった目を引く言葉ばかりが一人歩きして「炎上」を巻き起こす典型的な例ではないか。今回の被害者は突然消え去られたプライベートクラブの「霞ヶ関CC」とその会員である。タイムリミットが迫る中、東京五輪の成功と五輪でのゴルフ存続のためには、不愉快な思いをしては会員の善意にすがるか。【社会面担当 丸山汎

プロレスに密室性なし
(終わり)